プログラム資料　　【湖面活動】

No. 305	サバニ研修（しじみ観察コース）			
概　要	サバニ（10人乗りの大型カヌー）に乗り、パドルを操作し、宍道湖に漕ぎ出す。（往復約3．5km）天候によっては、途中でコースを変更したり、引き返したりする場合もある。研修者の実態に合わせて、指揮艇による曳航（ロープで引っぱる）ことも可能。			
内容	人数（人）	10～40人	時間	3時間
	対象	年長以上	時期	3～11月（12月は要相談）
	場所	平田船川および宍道湖（斐伊川河口）		
	指導形態	自主活動　・　職員による事前の説明のみ　・　職員・協力員による直接指導		
	安全管理	職員・協力員による監視		
ねらい	○安全に活動するため、艇長の指示を聞いて素早く動く。 ○最後まで全力で漕ぐ。 ○同じ船の仲間と協力してカッターを漕ぎ進める。 ○宍道湖の自然に関心を持つ。			
準　備	施設から貸出	ライフジャケット　帽子（忘れた場合）　パドル　ジョレン（しじみを捕る道具）　水槽（しじみの観察用）		
	団体で準備	ぬれてもよい服（下に水着を着ておくとよい。）　ぬれてもよい靴（サンダル不可）　帽子　タオル　水筒　カッパ　ビニール袋（しじみを入れるもの）　クーラーボックス・保冷剤等（しじみの持ち帰り用）		
	確認事項	・乗艇者名簿を前日までに作成して提出する。（乗艇者名簿の裏面の留意事項を参照すること） ・配慮を要する研修者がいる場合は、事前打ち合わせで報告する。		

	内　容	留意事項
活動前	①実施できるかどうか確認する。 ②指導スタッフと打合せをする。（研修開始までに事務室で行う） ③乗艇者名簿を確認し、変更があれば直して提出する。 ④研修者の持ち物の確認をする。（帽子、水筒、タオル、天候によってはカッパ） ⑤事前にトイレを済ませ、指導スタッフの指示で乗艇者名簿の順に並ぶ。	○午前中は8:15、午後は12:15頃に実施判断する。 ○中止の場合は、事前に決めておいた荒天時プログラムを行う。 ○研修者の健康状態の把握に努め、特に留意を要することがあれば相談する。 ○帽子はかぶらないと乗船できない。忘れた場合は、貸し出し用を借りる。
活動の説明	①サバニ研修の意義、留意点等について話を聞く。 ②指示通り動けるよう、声出し等の練習をする。 ③持ち物を確認する。（帽子、水筒、タオル、天候によってはカッパ） ④バスに乗り、艇庫へ向かう。 バスの中でも、パドルの名前等の説明を聞く。	○開始時刻に遅れないよう、エントランスホールに整列する。 ○号令後は、説明から展開まで、指導スタッフがすべて行う。引率者は、研修者に声を掛けないよう留意する。
展開	①指導スタッフの紹介 ②サバニに乗る際の注意点など説明を聞く。 ③ライフジャケットを身につける。ゼッケンは使用しない。 ④パドルを運ぶ。 ⑤パドルの持ち方を教わる。 ⑥サバニの座り方、漕ぎ方等の実演を見る。 ⑦サバニに乗り、漕ぎ方の練習をする。 ⑧船川から斐伊川河口へ向かい漕ぎ出す。 ⑨斐伊川河口の到着後、サバニから下りてしじみ観察を行う。 ⑩終了後、サバニに乗り、艇庫に向かって漕ぐ。 ⑪着岸後、パドルを艇庫に運ぶ。 ⑫ライフジャケットをはずす。 ⑬ふり返りをする。 ⑭バスに乗ってサン・レイクへ帰る。 ⑮サン・レイクに戻り、しじみの砂はき作業をする。 ⑯次の日、遠くまで帰る場合は、冷凍する。	○①～③は、艇庫内で行う。 ○サバニは、艇庫南側の岸壁に停泊している。階段を下りるので、十分気をつけて運ぶ。 ○サバニの一番後ろには、艇長という指導スタッフが1名乗船する。研修者は、艇長の指示に必ず従って動くようにする。 ○引率者は、指揮艇に乗船することも可能。 ○引率者がサバニに乗る場合は、研修者への声がけ等を控える。 ○天候が急に悪化した場合、途中で引き返す場合もある。 ○怪我人、急病人等出た場合は、救助艇で搬送する。 ○斐伊川河口に上陸する際、水筒はサバニに置いて降りる。 ○採ったしじみは持って帰ることができる。（漁協の許可を得ているが、普段は勝手に採ると罪を問われるので気をつけること。） ○しじみを入れた袋の中には水を入れない。（水を入れると早く弱る。） ○サバニに乗る時、できるだけ砂が入らないようにする。 ○砂はきの作業の仕方は、職員が指導する。サン・レイクを出発するまで、冷蔵もしくは冷凍保存をすることができる。 ○指導スタッフは、活動中、研修者に体調不良者がいないか声を掛けたり、表情を観察したりする。